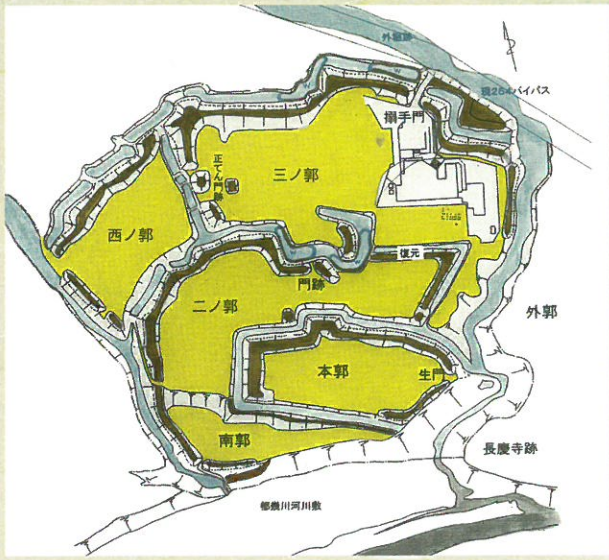
比企城館跡群

比企地域には69箇所の城館跡があり、関東を代表する中世城館の遺跡群が形成され、城郭の博物館ともいわれています。これらのうち、菅谷館跡・松山城跡・杉山城跡・小倉城跡が城郭規模や築城技術等の特徴、良好な保存状態から「比企城館跡群」として国史跡に指定されました。

菅谷館跡

『吾妻鏡』に元久２年（1205）畠山重忠が「小衾郡菅谷館を立つ」と記され、鎌倉時代の名将畠山重忠の館跡として国の史跡に指定されています。しかし、現在の菅谷館跡の形は戦国時代の城で、須賀谷原の合戦の後に山内上杉氏によって再興された「須賀谷旧城」だと考えられています。都幾川の断崖上に本郭があり、二の郭・三の郭・西の郭・南郭が同心円状に配され、東西は自然の谷を利用し、深く堅固な堀で防御されています。発掘調査で出土した遺物の年代は15世紀末から16世紀前半を示しています。